

(北村) それでは、よろしいですか。3 時 20 分、戻っておられない方も若干いますか。いいですね、時間通り始めましょう。では、ここから坂本ロビンさんをお願いいたします。自己紹介を含めて、どうぞお願いします。

(坂本) 本当に一番危ない時間ですね。皆さん少し昼寝をしたいところですが(笑)。先にいろいろ話しましたので、今度はもうちょっといろいろ、◇最初◇からいきますので、取りあえず、私は 1985 年に日本に来ました。そのときの日本語はゼロ、日本語を勉強しませんでした。なぜ日本語を勉強しなかったかという、私は大学のときにドイツに留学していて、アメリカで先生になるつもりでした。アメリカの先生になるために半年先生の授業をしなければならないので、ものすごく大変でした。力がないので、アメリカで先生になる前に少し外国に行って先生をやって、アメリカに戻ろうという気持ちでした。ではどこで何を教えようかと思ったら、私の大学の先輩が日本だったら英語の先生ができるよ、それはいいですね。それで中学校の英語の先生になりました。

日本は中学校からみんな英語を学んでいるから、もうみんな英語がぺらぺらだから日本語はいらないと思って、軽い気持ちで日本に来ました。一番危ないところは成田空港で、これは 1985 年ですが、日本人はエイリアンズと感じました。本当にそこで自分で待っていて、日本人ではないですが、エイリアンではないと思うんですが、この場合どちらの道に歩こうかなと非常に困りました。今は日本人のパスポートに取替えましたので、戸籍はみんなと同じですが、今、道は 1 つしかないからすごくうれしいですが、日本のパスポートを出すとお帰りなさいと言ってくれるんです。すごくうれしいです。

だけど、エイリアンの道がそのときはあるので、エイリアンが道を歩いている、最初はパスポート見せたらお帰りなさいとか何も言わないで、どこへと言われまして、私は、あ、岩手県と言ったら、はあ？ みたいな感じでした。この顔のはあ？ は今でも覚えています。本当にその方は驚きました。すごく不安になりました。どこへ行くんだろうと思って、岩手県はどこかなと不安でした。そのときは成田から東京の市街はほとんどみんなバスでした、成田エクスプレスとかそんなに便利じゃなかったの。バスに乗る気持ちは 10 分、成田空港のバスから東京市街までは 90 分です。今までで一番どきどきの 90 分でした。間違っ乗ったバスじゃないかな、このバスはどこまで行くのかなと、何か聞きたいけど全然言葉も通じないみたいで、どうしようと、本当に疲れました。

ようやく東京駅に行って、そして盛岡まで新幹線で行きました。盛岡から少し小さい村で、紫波町という名前ですが、そこの中学校の先生として 3 年間生活をしました。もちろん初めての外国暮らしでした。町の皆さんはディイス・イズ・ア・ペンぐらいの英語を知らなかったです。カルチャーショックはそこでもう◇……◇でした。そこまでは、私は本当に異文化のコミュニケーションの意味はゼロだったと思います。なぜかという、ドイ

ツに行ったときはドイツ語が専門ではなかったがかなり勉強しまして、ドイツに行ったらいろいろの意味の違いとかはありましたが、まったくゼロはありませんでした。

もう一度言ってくださいませんかとか、十分言葉の力がありましたから、すみませんがちょっと分かりませんでしたとか、それはあったけれども、日本に来たら全然通じないというのは本当でした。何もできませんでした。自動販売機で買い物もできませんでした。何でジョージアはコーヒーですか (笑)。それはおかしいなと今でも思います。ジョージアはアメリカ合衆国の 1 つの州の名前です。何でそれを飲みたいんだろうと、全然その発想がありません。スエット、スエットは飲みたいですね。何か中途半端の前に立っていると、本当に日本人はエイリアンと同じ気持ちに戻ります。私は何が飲みたいのかと。

非常に日本で生活するのは、外国から来ている人には難しいです。私はそこが異文化コミュニケーションだのと、その異文化コミュニケーションという言葉も知らなかったから、ただ、これが個人の頑張り、チャレンジングスピリッツと言いましたが、ここで頑張れなければならないなという気持ちで、2 年契約で 1 年目は、うちに帰ってほとんど毎晩泣きました。全然通じなくて分かりませんでした。うちの近くにタクシー屋さんがありまして、みんながタクシーを呼ぶまではテレビを見ていました。ある日、私はそこへ行きました。22 歳、若い私がそこへ行って、一緒にテレビを見てもいいですかと言いました。それぐらい寂しかったです。タクシーの運転手さんはびっくりしましたが、ああ、いいですよと。そこで一緒にテレビを見ました。本当に寂しかったです。

どうしてそういう気分になるかという、少しずつ日本で生活すると、日本人は優しい過ぎます。本当に優しいです。いい意味と悪い意味ですが優しいです。ちょうど夕ご飯の時間に、知っている人のうちにピンポンと行きました。そして教育委員会の方とか中学校の先生とか、ドアを開けたら、あら、先生、今日は何かありましたか。ううん、この辺にいました。そして待っています。必ず、どうぞ入ってくださいと言うんです。やった! と思って、そうして家の中に入って、今度はお茶を飲みませんか、ええ、いただきます。今度はお茶を飲んだりゆっくりしていると、だんだんに夕ご飯の時間になって、あちらもどうしてこの人は帰らないんだろうなと思うんだが、顔にはそれは絶対見せないです。そうしてだんだん時間になると、夕ご飯は? お願いします (笑)。素晴らしかったです。2 年間でほとんどいろいろな人たちのうちへ行って、お酒を出すと今度は泊まることになるから、素晴らしい経験に私はなりました。

今、考えてみるととても恥ずかしいですが、それぐらい寂しかったです。やはり人間はコミュニケーションができないと死んでいると言いましたが、本当にそうです。コミュニケーションができないと、寂しさは本当に生きられないような気持ちになります。でも、何度もの方法で、いろいろな農家の曲がり屋とか、木のお風呂、まきのお風呂で、外にあって星が見えた経験もあります。最初は日本人は恥ずかしくて、先生、うちは本当に恥ずかしいと言います。でもすごく私の顔が喜んで、こんなお風呂は初めてですとか、こんな経験は初めてでありがとうとか、やはり何かのコミュニケーションがそこで生まれていま

した。

2年目は楽し過ぎて、契約を1年間延ばしまして3年間になりました。3年では足りない
ので、今度は中学校じゃなくて、ディス・イズ・ア・ペンの時代は本当に何回も何回もデ
イス・イズ・ア・ペン、せいの、ディス・イズ・ア・ペン、そんなのはもう3年しかでき
ないですね。そして今度は高校の先生を2年間やっていて、5年間生活してから、やはり自
分も勉強したいという気持ちになって、そこで初めてこの異文化コミュニケーションに出
会いました。アメリカの授業を受けながら、日本で仕事をしながらで、非常に面白い、何
年間かかかって生活をしましたが、博士号は2006年でやっと取れました。高校3年生の娘
と授業が一緒でしたので、彼女は高校に入るために一生懸命、私は卒論文で一生懸命、隣
同士で毎晩勉強していました。今は私は東京の方で、慶應大学と立教大学の両方で先生と
して仕事をしています。

私は今日皆さんにいろいろ話したいことがたくさんあるんですが、まず異文化コミュニ
ケーションは、私のようにヨーロッパに行ったり、日本に行ったりいろいろなところへ行
くと、経験としては学びます。でも、多くの日本人はその経験を学ぶことが残念ながらあ
まりないです。とにかく大学生には留学しなさいと私がいつもうるさいぐらい言うん
ですが、大学生が先生、留学するとあと1年間大学にいななければならないから、それは無理で
すよとかいろいろな話が出るから、私の授業にはこの異文化コミュニケーションをぶつ
かり合い、本当に自分も経験できるような授業が、私は自分でやっている教育です。

学生の目から見ると私はすごく失礼だと思います。でも学生も面白いです。私の授業を
取ると、なぜ私の授業を選びましたかと後で聞くと、坂本ロビンですね、まず男性と思っ
ています。カリフォルニアの2世じゃないかな、かつこいい男じゃないかな、それでだい
たい決めます。この名前だけで見てそれで決めます。最初の授業は36人ぐらいで、私が教
室に入ると、「グッドモーニング」と。ちょっとみんなが自分のスケジュール帳を見ます。
間違っていないですよ、私は坂本ロビンですよって。3人ぐらいはいつもそこで立っていたの
が逃げている(笑)。あれ?と思うんですが、やはりその辺の自分が思うことと実際のこ
とのぶつかり合いで、逃げる人がたくさんいます。今日はみんな逃げないように楽しいこ
とをしたいですが、◇イガミ◇は絶対ないですが、まず1つのアクティビティーをしてほ
しいです。

このアクティビティーは隣の人と2人でやらなければならないので、ここはうまく2人
になりますか。大丈夫ですか。やらないとだめですよ(笑)。いいですか。では、お願いし
ていいですか。まず立たなければならないです。相手をよく見て、握手でもいいし、名刺
でもいいですが、名前を言ってください。

(ロールプレー)

(坂本)　そこまでいいですね。今度は背中と背中を合わせて立ってください。いいです
ね。今度は自分の姿の中で、5カ所取り替えてください。例えば。

(ロールプレー)

(坂本) 5カ所、先ほどと自分を5カ所取り替えてください。想像的です、何でもしてください。5カ所です。

(北村) 頭の中ですか。

(坂本) いいえ、実際にやってください。これは大変ですね。

(ロールプレー)

(山本) やっていることを相手に見せません、相手には見せないで背中合わせです。

(坂本) 終わりましたね。

(山本) 考えますって、考えてやってください、自分で5カ所を必ずやってください。

(坂本) 今度はもう1回顔を合わせて、どこを取り替えたか相手に教えてください。

(ロールプレー)

(山本) ここが変わりましたね、あそこが変わりましたねと、相手の変わったところを当ててます。

(ロールプレー)

(坂本) 合格したら座っていいです。

(ロールプレー)

(坂本) これは今は一番面白い顔です。みんな直しています、どうしてですか。先ほどの眼鏡はカッコいいと思いましたか(笑)。どうして直しているかというと、◇……◇出たときは自分のアイデンティティーをつくりました。私はこの人をみんなに見せたいです。その格好に今みんな急いで戻りました。そうじゃないとどうしても自分の心の中は落ち着かないです。これがカルチャーショックというものの簡単な例です。自分はほかの文化に行くと、違うものに見えるのは嫌です。自分はこの人に見せたいがうまくいかないです。自分は何か分からないけど合わなくていらいらするのを、今は少し経験をさせたかったんです。

みんな素直で、日本人は優しいと言いましたでしょう、やめなさいと言えはすぐにはいい、やめますと。やめない人は1人もいませんでした。それをやってみたい気持ちは日本人は

すごくあります。だから、私は日本人はコミュニケーションはすごく能力があると思います。でも実際にやってみると、何か不思議なことです。エレベーターの中は私は一番嫌いな場所です。日本のエレベーターに乗ると、何を見えていますか。真っ直ぐ行く、みんなは何かどこを見ているのか、私は24年でもまだ素直にエレベーターに乗れないんです。エレベーターに乗ると、どうしてもハイ、ハウ・ア・ユウとか声を掛けたくなる人です。スライドを見せなかったが、アメリカ人はサイレンスに対してのトレランスはゼロです。だから本当に私は人に声を掛けたいので、エレベーターの中でその◇ゴウ◇の習慣でみんなが。もう我慢できないです、本当に苦手です。

私の生徒さんたちが入学すると、先生ってエレベーターでも声を掛けましたよと。一番かわいそうな生徒が、エレベーターに乗っておまわりさんも乗りました。その人が、アメリカ人だからナイス・◇エレベーター◇・イズント・イットと言いたい感じで後ろにいます。悪いことをしていないので、何でおまわりさんが私に声を掛けると。でも、アメリカのエレベーターの中ではそれは会話が出来るチャンスです。場所の1つです。でも、日本ではそれは絶対そのチャンスを使っていないで、もったいないと私は思います。

日本人は外国で会うとすごく面白いです。明るいし、いろいろな話をしているし、面白い人です。だから飛行機の中でどのように変わってくるのかなと、私には不思議で分かりません。何で私に質問できないのとか、緊張するのとか生徒に聞いてみると、恥ずかしいからです。うそ。日本人はカラオケを歌います。私がエレベーターの次に嫌いなものはカラオケです。あれは恥ずかしいです。何でそこから、なあつとできるのに、私みたいな顔の人にグッドモーニングができない、合わないんです。何より経験不足だと思います。

だから自分の方から声を掛けてみて、返事が聞ければ、あ、通じますね。その自信がないから、日本にいれば日本人はそれまでは何も言わないです。外国へ行ってしまうと、やはりしょうがない、話をしなければ今晚のご飯が食べられないです。だからその勇気を出せるが、日本の中ではこの勇気を出すのは非常に難しいです。だから私が皆さんに少しだけの経験をさせたいなと思って、自分はどういう気持ちになると相手の文化にぶつかって、こうなるなと気持ちは1つです。

もう1つは、次の話ですが、やはりずっとここで1時から隣に座った人の、たぶん洋服は1回も見なかったと思います。◇ユウ◇にしているとか、眼鏡をかけているとか、それは全然頭の中に入っていなかったと思います。私が隣の人とあいさつをしてくださいと言っても、はっきり見なかったと思います。でも、今度はいきなり、どこが変わったと、前はどうかだったとか、これが脳の働きです。先生が◇……◇緊張するんですが。もし私たちが実際1日中全部見ていたら、脳はもう爆発すると思います。インフォメーション・オーバー・ロードです。だから私たちはこれはこう、これはこう、これはこうと、ステレオタイプをすぐ若いうちに覚えます。

でも、実際はそのステレオタイプが一番危ないです。◇トンデル◇は自分は今この人はこんな人と決めているから、今日はみんなはこうじゃなくて、2つのステップの後ろに戻

ってほしいです。難しいです。本当に私たちの脳はすぐにものを決めてこうだと、だからここからもう一度見るのはすごく難しいです。でも、異文化コミュニケーションとしてはここから始めないと、ミスコミュニケーションが起こります。

これは DIE ということですが、私のパワーポイントは英語でやっています。英語でやって日本語でしゃべると、皆さんの脳の働きが 2 倍になるが、それでいいと思います。私には日本語のニュアンスはすごく難しいです。私がしゃべったことは、英語で見て自分で決めてほしいです。だからメモは日本語でももちろん大丈夫ですが、私が日本語でやると、私の考え方しか頭に入らないので、私がわざわざ英語で書いているのは、みんなに少し考えさせたいので、あの人は何と言っているのかな、このことかな、あ、そうそうと自分で感じるとか、意味を決めて書いてほしいです。だからパワーポイントは英語ですが、しゃべるのは日本語です。

これは新しい見方、ニュープロスペクティブです。今までは隣に座っている人を一切見たことがなかったかもしれないので、次の授業や講演に行くと隣の人をチェックするかもしれないです (笑)。やはりそれがニュープロスペクティブという、新しい見方だと思います。私の名前とメールアドレスはすごく簡単です。ロビン・アット・ロビンサカモト・ドット・コム、誰でもそれは絶対忘れないと思います。

この DIE は何のことかという、これは本当に簡単なスキルです。ここに書いているのは異文化コミュニケーションのツールとかスキル、自分でできることですが、どこでもできます。なぜかという、意味を理解できます。ハイコンテキストとローコンテキストの話がありましたが、私が面白いと思うのは、日本人が日本で 2 人で初めて会うところ、日本人同士で礼をして名刺交換をすると、言葉なしでこの名刺を見えています。何をやっているのかといつも私は聞きたいです。ちょっと待って、今何を考えているんですかと聞きたいです。その次にしゃべることは、今日はお天気がいいですね、本当にいいですね。名刺と天気はどんな関係がありますか。

私は本当に恥ずかしいですが、日本語を勉強しないで日本に来ましたから、本当に赤ちゃんみたいに日本語を勉強しました。7 月に来ました。皆さんのあいさつは、暑いですね、暑いんですねです。私は暑いんですねがこんにちはと思いました。これはすごく 8 月はばつりでした。9 月には少し面白いあいさつになりまして、暑いですね、そうかな。10 月には全然いきなり通じなかったです。こっちはこんにちはと言っているのに、先月は大丈夫だったのに、英語のこんにちはは、こんにちはの意味じゃないのかなと。これが本当に私のローコンテキストです。これは変わらないです。

なぜあのときは天気の話をするのか。外にいれば誰でも天気は分かるから、言葉にしなくてもいいんじゃないかと私は思います。逆に、あなたは誰ですか、子供さんがいますかとか、仕事は何ですかとか、そちらの方を聞きたいので、天気は日本に来る前には 1 度もしゃべったことがありませんでした。今はしゃべれるが、不思議な感じだなといつも思っています。だからその名刺交換はハイコンテキストがすごいです。分からないが、その名

刺を見ていると、この会社は——日本の名刺は会社のマークは自分の名前より大きいです。面白い、なぜと思うんですが、アメリカでは絶対にはないです。自分の名前がばこんと出ると、あ、ちゃんとこの会社です。

これをずっと見たり、相手を、この人ははあはあ、すごくいろいろインプットしていると思います。その全インプットを全部してから、初めて言葉を出します。アメリカでは全然これはないです。アメリカでは最初からハーイ、アイムロビン。ハーイ、ナイス・トゥ・ミート・ユウ。ホワット・トゥ・ドゥ。ウエル、レット・ミー・テル・ユウということで、アメリカでは名刺交換もしないです。なぜかという、名刺の意味は連絡先です。だから、もしもっと話したいなら、あ、私の連絡先ですと最後に出します。もし名刺をもらわなかったなら、もう会いたくないの意味なので、少し悲しいです。そこまではないですが、本当に名刺の交換は私は日本でびっくりしました。私の父も、IBM という会社で東京でも 3 年間働きましたが、名刺はこんなに日本で使うんですかと、私ももちろん、本当に驚きました。

私はこの間マレーシアの学会に行きましたが、面白い先生が、何か私の話を聞いたり、その後で少し話があったみたいで、別の人が私のところに来て、すみませんがこの人があなたと話をしたいですが、よろしいでしょうか。面白い文化だなと思って、いいですよ。この人ですね。はい、そうです。でもうちの文化の中では、女性と男性が座ることはできないので、絶対に手を出さないでください。分かりますかと。いいですよ。教えてくれてありがとうございますと。そして、今度はその人が学長さんを連れてきて、その学長さんは私の前に同じ名刺を出しました。でも名刺は小さいです。こんなに小さい名刺交換で座ることはできないと、本当に何がみたいな感じで、本当に◇キッチュ◇みたいな感じで、◇……◇ましてほっとしましたが。イランの方です。イランの大学の学長で、やはり彼の文化の中では、話すことがあっても私と握手ができないから、彼の下の人が最初にあいさつに来てくれて、そうして私たちはうまく会話ができました。非常に面白いと思います。やり方も◇……◇ひょっ、ひょっ。

これがハイコンテキストとローコンテキストの話でしたが、この **DIE** はアメリカ人に特にハイコンテキストになれるのかの練習が 1 つ、でも日本人にもいっぱい勉強できると思います。だから今日は紹介したいです。まず、何のためにかという、この **D** の意味は **Describe**、何を見て、何を感じている、何を感じているんじゃないかと、何を見て、何を聞いたりとか、何が本当にディスクリプです。先ほどはどどこが変わりましたかはディスクリプです。◇ユビワ◇を取りましたとか、眼鏡を外したとか、それがディスクリプです。**I** は **Interpret** です。インタープリットの方は、何のためにそれをやりますか。今、私は名刺交換の話をしましたが、私のインタープリットは相手にどのように声を掛けようとか、その名刺を見て頭の中ではインタープリットしているんじゃないかと思います。一番最後は **Evaluate**、私は眼鏡を逆にしたらかつこいいと言いました。かつこいい、もう私はそこがエバリュエイトです。想像的でかつこいいなど。

こちらの方が、異文化の場合はほかの文化にはそれはどのように取られているでしょう。私が一番好きなアメリカの先生は、彼女の授業は本当に休まないです。彼女はいつも机の上に座っていて、コーヒーカップを持っていて、ワット・ドゥ・ユウ・シンク。これは日本の大学の授業をやっていると（笑）。まず机の上に座っていました。そんな失礼な先生は初めて見て、授業しながらコーヒーを飲んだり、いや、すごい先生だねと。ワット・ドゥ・ユウ・シンクと何も準備させていないで、先生は何も知らないから、私たちに聞かせると失礼だなど、全然悪い気でいません。だから私がいいと思う先生は、やはり日本ではいい先生はどの先生か、25年かけてもまだ分かりませんが、頑張っています。

このDIEは、残念ながら多くの人たちはEから始めます。Eで始まってDは一切考えていません。Iは少し考えているみたいな感じです。だから私たちはこれを逆に学んでいました。これは何ですか。難しくないですよ。これは何ですか。

() ◇……◇。

(坂本) 鳥、ウサギ、いいですね。半分半分ですね。これがミスコミュニケーションです。もし、鳥に似ていると、私はウサギに似ていると、どちらが正しいですか。

() ウサギです。

(坂本) どちらもですね。でも顔は分かりにくいです。私は鳥と思っているから、いや、この間うちの近くの池にシベリアから来たのを見ました。ウサギがシベリアからどうやって来るかな。会話に全然なりません。だからこれをみんなもエバリュエイト、何を見えますか。長い耳を見えています。長い耳、ちょっと待ってください。そして私は確認で、あ、このように似ているなという理解で、そこから会話を始めればいいんですが、私たちはそのように会話をしません。当然私は鳥に似ていると思うから、あなたも鳥に似ていると思うだろうと、会話はそこから始まります。

私は日本の医者で、悪いんですが会話が通じないんです。なぜかという、一番最初、おなかに子供が入っていたときに医者に行きました。そのとき医者が私に、妊婦さんはね、妊婦さんはね、妊婦さんはね、たくさん説明しました。私が、先生、ごめんなさい、私は妊婦さんを知りませんと言いました。医者が、はあ？ 彼は私のことを妊婦さんと呼んでいたんです。妊婦さんはちゃんと寝ないとだめですよ。妊婦さんはちゃんと栄養を取らないとだめですよ。一生懸命おっしゃってくれました。ところで、私は自分が坂本という名前だと思ったから、妊婦さん、妊婦さん、何でこの医者は一生懸命妊婦さんのことを私に教えるのか、私は妊婦さんと全然関係ありませんから、そう言ったら、医者もはあ？ みたいな感じで、私もはあ？ な感じでもうコミュニケーションはゼロです。

どこかで確認すればよかったが、私はこの鳥しか見なくて、医者はウサギしか見なかつ

たので、会話は全然そこで終わりでした。親切にいろいろ教えてくれましたが、理解できなくて悪いなと一切思いませんでした。何か変な医者だなと思っていました。どうしてほかの患者さんのことをいっぱいしゃべっているんだろうと思いました。でもこれは私だけではないと思います。残念ながらうちのおばあちゃんが病気になったときは、やはり医者
と主人のミスコミュニケーションで、どの薬を飲ませればいいのか、どの治療をすればいい
のか全然分かりませんでした。59歳の若さでおばあちゃんは亡くなりました。今でも私は
もう少しそこでいいコミュニケーションができていれば、考え方は甘いかもしれないが、
生きていたんじゃないかと。非常にこのミスコミュニケーションは、誰の責任ではないで
す。鳥に見えてもウサギに見えても正しいです。でもその確認、確認しないでいきなりこ
れは鳥だろう、そのだろうが欲しいですね。自分が友達と会話をしていると、同じ立場か
ら考えているかどうかの確認が非常に大切です。

では、次は何が出てくるでしょう。だからまず初めはものをディスクライブ、ものを
はっきり見ます。そのために皆さんに2つのものを持ってきました。これが1つです。自分
で見て回してください。これも1つですね。これを回して見ると、多くの人たちは、例え
ばこれは危ないじゃない、変なものじゃないとか、そうじゃなくて、実際はディスクライ
ブしてほしいですから、何を見ている、これは何だろうじゃなくて、まだ答えは欲してい
ません。実際に何を見ているかの立場から始めたいと思います。

これはものだけじゃなくて、やはり先ほどの◇ジュウバン◇のワイシャツのところとか、
これは非常にマネジャーとしては、私の父は日本で一番大変なことはやはりこのミスコ
ミュニケーションのところ、難しいですねとか、本当に、さあ？ の言葉ですね。これ、金
曜日までにできますか。さあ？ これはどういう意味ですか。さあ？ が全然入っていな
いです。これは金曜日までにできますか。さあ？ たぶんそれは全然できませんで、どう
して頼んでいるんですかとか。もしそこで分からないなら、言葉になると、ちょっと難し
い。ちょっと難しいは英語ではア・リトル・ビット・ディフィカルトです。でも賢いから、
それは簡単でできるんですね、きっと。かなり◇……◇なります。だからこれはやはり自
分の伝え方とか話し方とか、ものだけじゃなくていろいろな——研究者ですね、素晴らしい
です（笑）。このやり方ですから、これはやはりものによって人の顔、何でも伝えるで、
こうなる前には実際は何をやっていますか。

ハイコンテキストとローコンテキストは場によっても変わってきます。先ほども言った
が、会社ではすごくハイコンテキストかもしれないが、うちの中ではローコンテキストで
す。男性、女性、ハイコンテキストとローコンテキスト。私が大好きなのは、夫婦の会話
の中で、奥さんがだんなさんに、来週休みですね。うん。近所にはフランス料理店があり
ました。うん。すごくおいしいみたいです。北村さんたちも行きましたよ。すごくおい
しいと言われました。うん。全然です、こちらがすごくアピールしているんです。でも、
はっきり言葉は、この線のこうからこうじゃなくて、私はあなたと金曜日にフランス料理
店に行きたい、分かりましたか、じゃなくて、この休みですね、こうですね、こうですね

と。そして今度は新聞から◇アドバ◇を見ている主人が、あ、そうだったら野球を見に行く。ガクッ。あるでしょう？　こういう場合、やはりそのディスクライブのところは何をしゃべっているではなくて、顔を見たり、ムードを出しているのをすべて見てから決めることです。

これが戻りましたね。これ、分かりましたか。日本のものです。

()　まだ見ていないです。

(坂本)　まだ見ていないですか。セーフです。1つはアメリカで買ったが、もう1つは日本で買いました。両方を私はほとんど毎日使っています。もう1つは、今私は皆さんに少しヒントをあげました、ほとんど私は毎日使っています。1つは日本で1つはアメリカで作ってまして。これはやっぱり相手の立場からものを考えないと、絶対秘密は届かないです。これも私たちはよく忘れると思います。相手はどんな気持ちで聞いているのか、相手はどんな気持ちでここまで来たのかとかは、多くの方が私たちも忘れていきます。

アイデンティティーと言うんですが、私は日本のアイデンティティーとアメリカとアイデンティティーは全然違うと思います。私が日本に来る前には、名前はロビンです、こちらの方です。アレキサンダーだったから、アレキサンダー大王から坂本龍馬になりました。でも、ロビンの呼び方はほとんどみんなです。日本に来たら、そのアレキサンダー先生は長過ぎたので、みんながロビン先生と呼んでくれまして、中学生と高校生でそれに慣れてしまっ。今度は結婚したら、名前が若奥さんになりました。本当です。これは新しい名前だなと思いましたが、赤ちゃんを産んだら、1分以内にお母さん、よかったねと。お母さんが私の言葉でマザーですね。だから私の主人が、今までロビンと呼んでくれていたのに、いきなりお母さん、マザーと呼ぶんです。今度は、子供たちが大きくなったら、私の名前はレイナママ、ジュンナママ、モっちゃんママとか、いろいろな名前が生まれて、自分も返事できないぐらいの、それ、私ですか、みたいな感じがたくさんありましたが。

おじいちゃんが、この間私に友達を紹介してくれました。おじいちゃんは本当にいい方で、私はうちのおじいちゃんが大好きです。彼の小学校の友達を呼んでお茶会をしました。いや、いいですね、意気投合って。お茶を出したところで、おじいちゃんの言葉は、あ、うちの者です。ピンーでしょう。ア・ハウスイズ・シング？　うちのモノです。私、本当に怒りたかったです。わざわざお茶を持ってきて出しているのに、うちのモノと言うところじゃないでしょうと、私は本当に怒るつもりでしたが、そこでちょっと待ちました。ディスクライブに戻って、なぜおじいちゃんはそう言ったでしょう。しゃべった言葉は何でしょう。うちのモノ、うちはハウス、そうでしょうね。

だけどおじいちゃんは誰と会話をしていましたか。7歳から知っている友達です。だから深い意味で理解している人同士で、おじいちゃんは私がお茶を出しているところで、おじいちゃんのお持ちはありがたいで、本当にこのうちの中の中のうちのモノですよ。彼の温かい

気持ちがそれをしゃべっていました。うちのモノです。ほかに人がいなかったらうちはどうなっているか分からない、うちのモノです。それを聞いて気持ちが、私はもうエバリュエイトして、自分の鳥しか見えないで、おじいちゃんはウサギを見ているのに。ちょっと待って、考えてみて、あ、本当、おじいちゃん、ありがとうねと心の中で温かい気持ちが私にも戻りました。これが異文化コミュニケーションだと思います。相手はどのようにしゃべっているか、どんな場でしゃべっているか、何をしゃべっているかともう一度考えないと、自分の考え方がいつも正しいわけではないです。

では、これは何でしょう。まずディスクライブすると、何がありますか。

() ◇……◇。

(坂本) 輪ですね。輪が何個ですか。

() 3 個です。

(坂本) 3 個ですね。あとは、これをやると何が出てくるのか、とげみたいなものですね。何で作ってありますか。

() スチールです。

(坂本) スチールですね。あとは？ では、これは D ですね、ディスクライブ、それしか見えないですね。ヒントがまったくないから分かりません。今度はインタープリットに入ります。これをやってみますと、何か瓶の上にこうかなと。分かりますか。

() こういうものを開けやすくするものです。

(坂本) 惜しいです。でも、ここは柔らかいです。アメリカ人が朝ご飯によく食べるものは何ですか。

() 目玉焼きじゃなくてゆで卵です。

(坂本) そうです、ソフト・ボイルド・エッグです。ソフト・ボイルド・エッグでこれを切ると、上を取ると、スプーンで。今日は1つ勉強になりましたね(笑)。日本ではすごく細かくむいて、そして殻がどうしても残らないですか。残るでしょう。だからこれはすごく便利なものです。中をちょこんとやって、上を取ってスプーンで食べて、殻はそのまま1つのものが残ります。その卵を入れるために、アメリカでは特別のカップもあります。

知らないですね。でも、これはディスプレイだけでは意味が分かりません。やはりインタープリットを挟んでみたように、何か自分で、これで使っているかなと思って、最後には聞くしかないときもあります。

もう 1 つが回っているんだと思いますが、そちらも分かりませんか。男性が分からないのはいいかもしれないが、女性は分かるはずですが。私はお正月は必ず使います。でも、週に 1 回ぐらいうちで使っています。◇ケイカ◇のところにできると思います。

() 内側を使うんですか。

(坂本) 両方です。そろそろスイセンになりますかね。私の趣味としてです。

() 生け花ですか。

(坂本) そうです。それはお掃除するものです。

() 剣山ですか。

(坂本) はい。剣山をお掃除するものです。◇……◇の方は愛輪の方で、丸いやつは 1 本ずつをお掃除します。だから両方あります。

() どうしてお掃除しますか。

(坂本) 葉っぱとか何か残りものがあるから、立てる前にはきれいにしておいて自分の気持ちをきれいにしておきます。勉強になりましたか (笑)。よく人は眼鏡と関係があると言います。眼鏡の何とかじゃないかと思いますが。私は何回も使っていますが、1 回も当たったことはないです。では、次の方は、もうだいたいいきましたが、みんなはこれをディスプレイすると、どちらかを見ていると思いますが、若い女性だと見えていますか。

() おばあちゃんです。

(坂本) そうですね。おばあちゃんはどうでしょう。そうですね。すぐおばあちゃんだと見えたか。

() 僕は知っています。

(坂本) 残念ですね。

() すみません、知っていました。

(坂本) これは結構ディスクライブすると、だいたいおばあちゃんが出てくると思いますが、おばあちゃんはあまりきれいなおばあちゃんじゃないです。これがおばあちゃんのあごです。ここが口です。だからこのように見えています。この大きい鼻、アメリカ人だと思いますが、大きい鼻に◇デブ◇っのところは何か魔女みたいな、あまりきれいじゃない鼻ですが、ここに目が大きくて、これが髪で、白い髪です。まだ見えない人はいますか。いくら説明しても見えない人もいます。だからそれは恥ずかしくないです。それは自分の脳は、どうしてですかね(笑)。次の研究はどうしましょう。これがどうしてもないときも、自分は1つしか見えないで、それでもいいです。でも、異文化コミュニケーションができる判断までは同じものを見ているかどうか確認して、ここがあごですよ、ここは鼻ですよ、ここは目ですよ、このようですよとやります。では次です。インタープリットは、何を見ているかはやはりどうしても、ものを見るとエバリュエイトの方が早く、危ないんじゃないですか。これは何のことなの。それがネガティブかポジティブか、もう自分ではこれはいいものか悪いものかを決めているので、ステレオタイピングと同じですから、ディスクライブはものを見たらこうこうこう、今度は何のために使っているかを、柔らかい気持ちをしてほしいです。ルールは、いいもの、悪いものは一切してほしくないです。これは何か◇チン◇と◇ピンクオールド◇かな、へえ、のように見てほしいです。それがジャスト・ルック・アト・ワット・ユウ・ソウ・イン・ハート、判断はそれを見て考えてのところですよ。まだ飛ばないでほしいです。

今度は、これはどうでしょう。美しいでしょう。これは本当にロマンチックだなと私は思います。今晚のパーティーでしょうか。鏡を見て最後のメイクをするのは、きれいな女性です。とても温かいいい雰囲気で見えています。えっ、がい骨しかないですよ。だから1人が見るとすごく美しい、ロマンチックと見ているが、同じものを見ても別の人は正反対でものを見ます。ですからその確認はとても大切です。

だからジャッジしない、いいものか悪いものかは一切しないです。これはすごく有名な例ですが、ぱっと見ると気持ちは何ですか。痛いでしょう。痛いですね。それはもう◇ウィグル◇です、エバリュエーションです。これ、何だろうと言うと、ディスクライブから始めると、アフリカの国もあるし、カナダもあるし、中国もあるし、オーストラリアはあるし。そしてインタープリットは、この地図はどこで使っているのかなと。この地図は、オーストラリアの社会の教科書から取った地図です。なるほど、オーストラリア人から見れば、これが我々の地図です。でも、どうしても私たちは初めて見るとえっとなります。

DIEはこうならないように気を付けてほしいものです。教えた通りで本当に難しいです。ぱっとものを見ると、自分が決めるのは最初です。それが、あ、これは逆さまの地図だ、何で? 残念です、もうそこで彼は半分決めています。うまくこの人と会話できないです。

でも逆に、カナダ、中国、アフリカ、ええ、何でこの選び方になるのかな、どこで使っているのかな。下を見ると教科書っぽいかなとかをインタープリットして、ああ、もしかしてと聞くと、全然雰囲気が変わってきます。

この DIE は、私はどこでも誰でも使えると思います。異文化コミュニケーションとしてだけじゃなくて、自分の仕事は何であっても、私はこれを思い出してほしいなと思っています。これは夫婦の会話でも、ボーイフレンドとガールフレンドでも、先生でも、何でもの立場であると思います。何で今、顔をこうやったかな、ちょっと待って、今私は何をしゃべっていて、相手は何をしゃべっていて、ちょっと待っての何秒でも、やはりそこで本当のコミュニケーションになると私は思います。

先にしゃべっていたアイデンティティーは、私はアメリカのアイデンティティーを日本にそのまま持っていました。でも、日本ではアイデンティティーを取り替えて、誰のママとか。私は本当に主人に、もし私の心臓が止まって、あなたの足で倒して、もう死んでしまうときの最後の言葉は何を呼ぶと聞きました。聞かない方がよかったです。主人は、ごめん、やはりお母さんだよと。ショックです。でも、それが彼が見ている私です。それが私がショックを受けてもいいが、考えてみると彼が本当に想像的に、ここに人がいるから親も任されるし、子供も任されるし、それからうちの予算も任せられる、本当にいい心の近い人だからお母さんと呼んでいると思います。だからそれを自分がそのお母さん、何でお母さんと呼ぶのと思うよりは、もう少しバックして、どうしてこの呼び方をするのか。その環境の中のインタープリット、彼の気持ちは何だろうと、最後にはやはり温かい気持ちになるかなと、私も自分が非常に異文化コミュニケーションのスキルからいろいろ学んだことがありました。

私はいろいろなところで話しましたが、何か質問があるでしょうか。これも面白いですね、日本では質問はありせんかと聞くと、絶対にないんです。そうして、私が一歩外に行くと、ああ、これを聞いたかったとか、隣の人にこれはどう思うとか。私は非常に質問の答えは何でも答えます、年以外は。あとは何でもいいですが。はい。

(◇ナオミガクヤ◇) 例えば坂本さんがお母さんと呼んでほしくない場合、彼が、ご主人がお嫁さん、お母さんと呼びたい場合はどうするんですか。

(坂本) やはりここは日本だからしょうがないんじゃないかと思って、一緒に 22 年の意味では、もう私はアメリカから行ったときはロビンがしょうがないなと思っています。でも、私は本当にここは大学生には難しいです。なぜかという、大学生はロビン先生と呼んでいる人が多くて、せっかく博士号まで頑張って取っているのに、アメリカだったみんなドクターサカモトと呼びますね。でも、日本人の学生は一切それを、それでこの顔だから、本当に呼んでいません。2 年前に私は大学生に、すみませんが、私の名前は坂本だから坂本と呼んでほしいですと。その通り呼んでくれました、サカモトー (笑)。本当に困りま

した。ここは日本ですから、日本ではさんか先生を付けますので、私の名前は——でも、ここまで教えなければならない、ゆとり教育かな、◇……◇違っていたらどうでしょう。でも、心の中の気持ちはしょうがないなという部分もあります。

(ナオミガクヤ) いいように解釈しなければならないですね。

(坂本) そうです。でも、アメリカに行ってドクターサカモトと言われると、何かいい気持ちだというのがありますね。例えばこの部屋にはサトウさんもいるかもしれない、タカハシさんもいるかもしれないです。アリさんもいるかもしれないです、スズキさんもいるかもしれないです。本当にいるんですか。本当に自分の経験からいろいろ話してばかりですが、みんなが異文化コミュニケーションを難しいことだと考えると、非常に残念だと思います。

厚い本はたくさんあるので読んでみると、日本の文化はこうです、日本人はこうですとか。私が一番好きな本は、盛岡の出身の方ですが、新渡戸稲造さんの『武士道』です。彼は面白いですが、彼は英語で書きました。『武士道』は英語で 75 ページの本です。日本語になるとぐっと厚いです。実際に彼がしゃべりたかったことは、日本人の心を説明したかったのは、外国人に説明したかったんです。そうすると、やはりそのポイントが 1 発でできる英語の言葉を使っていました。奥さんもアメリカ人でしたが、彼女も手伝ったと思います。本当に英語で『武士道』を読むと、もう本当に日本人の気持ちをよく理解できます。アインシュタインやルーズベルトとか、いろいろな有名人がその本を読んだり、あ、日本人はこうだなと。

私が探しているのは、現在の新渡戸さんです。日本人の気持ちは、私が 25 年見てもだいぶ変わっていると思います。私が初めて来た日本と今教えている大学生はだいぶ、どのように言っているとか、どのように変わってくるとか、私はコミュニケーションを通して見ているんですが、非常にこれが面白いと思います。現在の新渡戸さんを見つけて、日本人はこうですよと会話できる人は、もしかしてこの部屋にもいるかもしれないです。やはりそのようにコミュニケーションは、自分の文化を理解して相手に話せるような人間になれば、一番いいと思います。

自分の文化といっても、自分の文化は医者でも文化です。先生でも文化です。だから異文化コミュニケーションはこの部屋の中では、22 人に当たれば 21 回でメンションできないです。みんな同じ日本人ですといっても、やはり違うところはたくさんあります。だから本当に経験がないかもしれないが、やってみて自分のコミュニケーション能力を伸ばせれば、すごく価値が自分の仕事などに戻ってくると思います。私のめちゃくちゃの日本語を長い間聞いていただいて、本当にどうもありがとうございました (拍手)。

(北村) それでは、坂本ロビンさんのご講演は終わりですが、本当に質問はないですか。

ありそうな気もするんですが。どうぞ、質問をまだ、やはりあるんです、日本は。

(坂本) 先生だって。

(AA) DIE は、でも実際脳科学者の立場から言うと、やはりどうしても E まで行くんですよね。絶対 E はあります。たぶん E から戻るとのことだと思いますが、それができる人と得意じゃない人がいて、そこはどういう違いなのかなというのと、では、不得意な人に対して、例えば教える立場だったどうすればいいんでしょうかという質問です。

(坂本) 本当にそれができているうちは脳は E はどうしてもいるんです。だから本当にそこは、後ろに戻るのには難しいです。聞くだけなら簡単なものじゃないかなと思って、実際にやってみるとやはり難しいです。できる人とできない人も結構います。

(AA) 何かそういう、例えば自分はそういうのは得意じゃないと、どうしても決めたかかったらこういうふうにはしか見えないという人がいるときには、例えば日常生活でこのように努力してみようとか、そういうアドバイスというのはありますか。

(坂本) 眼鏡は逆ささまで。自分の慣れている場所から一歩離れて、何でもいいです、本当にスキューバダイビングをやってみるでも何でもいいから、自分の自信がないところに立った方がすごくいいと思います。どうしても、不安になるときはコミュニケーションはしなければならない、出るから、人が助けてとか、そこまで危ないことをしなくてもいいですが、自分が歩いていると本当にこれしか見えないです。自分で慣れていない場所に行っちゃうと、ほかの国とかは絶対そうですが、そうじゃなくても学生に戻るとすごくいいです。

先生には一番厳しいですが、先生には例えばドイツ語を勉強しなさいと。イッヒから始まるこの気持ちは、私の生徒はすごくあるだろうと初めて理解できます。だから先生が学生に戻るというのはすごく不安な場所であるので、すごく勉強になると思います。どうしても私たちは 1 つの考え方しか知らないです。私がとても大好きな医者がいますが、ブレンサージェント、脳の手術をする先生で、彼の趣味は踊りです。信じられないと最初は思いました。でも、すごく、手の文字を書くとか、本当に手術をすると 6 時間、7 時間立って手術をするから、本当に細かい手の動き方と、脳の立場から見るとすごく◇カクイ◇になっています。

彼に聞いてみて、どうして脳で踊りますかと、全然合わないんじゃないですかと。だからと言いました。全然自分と違うことを経験したから、そこでいろいろ学ぶことができますと。だから本当に自信がない場所に行った方が伸び伸びすると思います。

(北村) 関連して質問ですが。今のお話は慣れない話とできない話なので、体験してくださいというのは分かるんですが、僕自身は今聞いてディスクライブというのがものすごく難しいなと。先ほどみんなに聞かれて、答えが出なかったときに、ぽっとそれは材料が何でできていますかと聞いたでしょう。そういうふうな考え方の糸口、引き出し口があるじゃないですか。その辺についてもう少し説明してもらえれば、ディスクライブの考え方が少し分かるかなと思います。

(坂本) そうだと思います。そこも相手の立場を考えれば、もっと簡単だと思います。うちの娘は私と全然違いますが、彼女はスポーツが大好きです。うらやましいですが、どうしても彼女は番号でものを考えています。私が最初は彼女と会話をするとう全然通じないというのは、彼女の立場から見ることができなかったんです。例えば初めての遠足で、アメリカのスクールバスは面白いです。2人座りで10列で40人ぐらい乗りますよ。スクールバスに乗ってそれで以上ですかと。私のなんかと全然違う立場からものを見ます。例えば友達と一緒にわいわい歌いながらいきましたとかですが、彼女はその頭じゃないです。

だから彼女を考えさせるとかものを出すと、ほかの人の考え方もまた違います。だから、やはり彼女の立場にいたるところと、本当に数字でしゃべると早く会話になります。9時半でここで何とか、何とかで。うん、うん、うん。いつもお母さんの大好きなケーキ屋さんで食べるところの前で、では全然彼女には通じないです。だから本当に相手の立場で、この人はどのように考えて、理解できる質問をすると簡単に決めることができるが、その場所を見つけるまでは少し時間がかかるから、やはり異文化コミュニケーションを勉強する人はそこが面白いところだと思います。

(北村) ほかにいいですか。

() いいですか。

(北村) どうぞ。

(◇タカハシ◇男) 相手の立場に立って考えるということは、ものすごく想像力が必要だと思うんです。今、私が学生なんかを見ていると、やはりその想像力が非常に欠けているような気がして、それは何が悪いのか分かりませんが、ただそういう想像力のない人というのは、やはり相手の立場に立てと言われても、立てない人が今はすごく多くて、それが私は今お話を聞いていて問題なのかなと思ったんですが、いかがでしょうか。

(坂本) 私もそう思います。具体的な例は、自分が熱を出していたらどうしたいか。私だったら誰にも会いたくないです。私は自分で引っ込んで、ベッドの中で治るまでは寝た

いです。誰にも、トントントン、大丈夫とか、何か冷たいものとか何も持ってきてほしくないです。本当にステイアウエーみたいな感じです。うちの主人は大反対です。彼が病気をすると世界は全部ストップで、大丈夫ですか、◇……◇たんが出ている、これはいけない、◇……◇。彼はそのタイプです。

そうすると、私たちはうまくいきますか。いかないですね。分からないから相手の立場に立てないです。本当にそこが分かりません。自分がいつも私はこのようにしたいから、相手に同じ気持ち◇……◇。彼が私に彼が立っている場所をやりたければ、私はもうけんかになります。そこはやはりしゃべるしかないです。そのコミュニケーション、どう思いますか、何をみますか、どの立場から話しているんですか。時間がかかります。でも、いろいろ研究していますが、面白いのは 1 国だけの人たちのビジネスのチームメンバーで、みんな同じ文化と、ばらばらの文化から集まっているチーム、どちらの方が成長するか。すべていろいろな国からの、いろいろな文化からの人が。

簡単なウエーとしては、昔のアメリカの◇……◇という会社が、車で◇ノバ◇という車はアメリカで一番売れた車でした。そのノバの車をほかの国に売りましょと、メキシコとか南アメリカで売るつもりでした。1 台も売れなかったです。アメリカでトップセールスです。メキシコと南アメリカで 1 台も売れなかったです。日本は◇スパインゴウ◇で走りません（笑）。誰がそんな車を買うんでしょう。そんな簡単なもので、アメリカで一番売れる車がノバだから、これでそのまま相手に売りましょと。相手の気持ちを分からないで。

やはりチームにいろいろな人が入っていて、スペイン語をしゃべっている人は、1 発でこれは誰も買わないですよ。アドバタイズメントはそこで大きく取り替えたので、今は日本で売っているものはアメリカで売っても名前が全然違います。それが響きが、日産も英語ではダットサンです。ダットサン、かっこいいでしょう。日産、何か柔らかいイメージで誰も買わないでしょう。それがそこからだいぶ変わってきました。

（北村） いいですか。今日の予定でプログラムにある通り、この後約 1 時間の総合討論の時間を取っています。なので、先生方は前に来てください。

（山本） まず、坂本ロビン、ありがとうございました（拍手）。
（会場準備）

（北村） では、残りの時間をぜひフロアとそれから講師の方々との討論、意見交換にしたいと思います。切り口はいろいろあると思うんですが、どのようにしましょうか。ここにせっかくおいでになっている皆さん、今日は異文化コミュニケーションというテーマについて、ある種の切り口を持ってそれぞれおいでになっていると思います。だから、いきなり我々こちらからの問題提起とか討論に入る前に、皆さんがどういうことを異文化コミ

コミュニケーションという話題と、ご自分の立場で何があるかを、それを短いですが1人1分以内、できたら30秒以内で言っていて、それを聞くと何をこの後話していいのかわかると思うので、お願いしたいと思います。

内側の人は除いて、お客さんの方からマイクを回しますから、1分ずつ、30秒ずつおっしゃっていただけますか。私と異文化コミュニケーション、どうぞ。

(◇マツオカ◇)　すごく身近な話題かもしれませんが、異文化コミュニケーション、人とコミュニケーションするときにまず探し出すのが、自分と共通のものがいないかということです。何かコミュニケーションツールで共通のものがいないかということを探します。それが何であってもいいですが、例えば出身校が同じだとか、読書傾向が一緒だとか、あとは何か好きなアーティストが同じだとか、何でもいいですが、それを探るように人とコミュニケーションをするときはまず、知らない人とまずコミュニケーション、コンタクトを図るときには、それを手探りでもいいから探し出すように心掛けています。

(北村)　すみません、お名前を教えてください。

(マツオカ)　マツオカです。

(北村)　マツオカさん。マイクを回していただけますか。横でどうぞ。

(◇オチアイ◇)　マイクを通すと、低い声です。

(北村)　どうぞしゃべってください。

(オチアイ)　私はものを書いているときに、例えばだいぶ何十年も昔に、音楽のクロスオーバーという現象がありましたよね。最近すごく思うのは、やはりいろいろな分野を知る、いろいろな分野が重なって起こる現象とかそういうものを理解しないと、理解できないことが最近多いような気がしているんです。なぜそういうことがそのように起こるんだろうと考えたときに、そのときに今回こういう話があると聞いたので、興味があって今日伺ったんです。

(北村)　ありがとうございます。お名前をやはり。

(オチアイ)　オチアイと申します。

(北村)　次、どうぞ。

(◇カツヤ◇) カツヤといいます。今までの講師の先生方のいろいろなお話を聞きまして、実際に私は数年前までは仕事をしていたんですが、今は家庭に入って、小さいながら書道教室をやったりして勉強しているんですが。

(マイクトラブルでカット)

(カツヤ) 今一番、やはり生活の中で、家庭の中でのコミュニケーション、それはすごく簡単なようでとても難しいなと思うことがあります。なるほどと思う話がいっぱい今出てきて、子供の、先ほどロビン先生がおっしゃいましたが、数字でお子さんは考える、だけれども自分は違うところで考える。うちの場合は逆です。私は数字で、数字が得意なわけではないんですが。その辺の糸口の見つけ方だとか、主人と◇……◇でもとても勉強になって、なるほどと再確認できたようなそんな講演でした。すごくよかったです。

(北村) ありがとうございます。どうぞ回してください。

(A A) 東北大学の加齢医学研究所というところで脳研究をやっているんですが、特に人間を MRI とかそういう機械に入れまして、いろいろな課題をやらせて、脳のどこが働いているかというのを調べています。特に僕の扱っているテーマとしては、コミュニケーションだったり、あるいは自己認知とか自意識とかいうところにどうやって迫ろうかなということを考えてやっているんですが、同時に研究者としては研究費というものを取って、申請書を書いて研究◇……◇ないといけないと。そういうときに脳科学と、自分でやっているような脳科学のそのビジネスフィールドはどこにあるのかなというのが、実際のところ大きなモチベーションでもありまして、ここでどんな世界があるのかというので楽しみにまいました。◇……◇ありがとうございます。

そう思いながら来たんですが、今日のお話を聞いて一番僕として印象に残ったのが、講師の先生も非常にしゃべりづらそうにしゃべっていらっしゃるし、僕自身もどこからどういう質問をしたらどう論議が発展するのか、糸口がすごくつかみにくい、そういう意味ではまさに北村先生の仕掛けた、その異文化コミュニケーションというところに見事にはまったなという感じで、非常にエキサイティングだったんですが、そういった部分も含めて何かこれからお話が聞けたらと思っています。ありがとうございます。

(◇ヨモギダ◇) 同じく、加齢医学研究所脳機能開発研究分野ところで勉強をさせてもらっています、院生のヨモギダといいます。今日のお話を聞いて、異文化コミュニケーション、え、それは何なのと来たんですが、お話にあったようにいろいろなそれぞれの文化というのは決まりみたいなものが、特に◇ニューシ◇的なものがあって、それが自分と違う人と会うとすごくびっくりして、初めてその差異に気付くということがあると思うんで

すが。

そういった意味で、別に物理的に制約されているわけではないが、普段自分たちが従わなきゃいけないルールというものが、おそらく頭とか脳の中にあると思いますが、そういったものが例えばほかの違う◇……◇で変わっていったりとか、時間的に変わることもあると思うんですが、それはどのように、そもそもそのルールがどのように成立していて、どういうコミュニケーションなどを通じて変わっていくのか、特に脳の中でどうなっているのかというところに興味があるので、いろいろお話が聞けたらと思っています。

(ナオミガクヤ) ナオミガクヤと申します。タイからまいりました。今、東北大学大学院国際文化研究科に所属しています。日本に来てもう長いです、もう 20 年ぐらいになりました。日本に来たときは、まだアイデンティティーが形成されていないままで日本に来て、そしてこちらでアイデンティティーが形成されたような感じです。ですから毎日が異文化のコミュニケーションで、もう 20 年間続いています。自分は本当にいろいろな問題があって、そして繰り返して、難を乗り越えて、また新しい問題に直面して、また乗り越えてきた段階でここに来ています。

今日 DIE のことを聞いたら、やっぱり自分が乗り越えたところは DIE をやったなと思います。◇カイノジュウデントウ◇を判断しないで、もう見たままで、リスクは自分に対して◇ビピショウ◇を見て、自分に対して説明して、そしていいように解釈する。そうすると自分がハッピーでいられると思うんです。本当に今日いろいろ再確認できてよかったですと思います。ありがとうございます。

(◇オオハシ◇) 宮城学院女子大学の産業心理学を担当しています、オオハシと申します。私は今回の異文化コミュニケーションということに関連すると、大きく 2 つ関係するような研究をしまして、1 つは北村先生もやっておられる科学技術コミュニケーションです。一般の人と専門家との対話というものを、どうしたらいいのかということです。それからもう 1 つは事故防止です。例えば最近あった大きな問題は、JR 西であったような脱線事故とか、ああいうようなものをどのようにして防いでいけるか、そういうことを心理学的にアプローチしていくというのが、私のやっていることです。

いずれもコミュニケーションというものがすごく重要になるだろうと思っていますし、また先ほど坂本先生がおっしゃったように、異文化コミュニケーションは別に異文化の中のコミュニケーションというわけではなくて、さまざまところでそれこそ、坂本先生の場合はご夫婦の間は異文化というのが非常に分かりやすい形であるのかもしれないが、もともとの国籍という意味です。しかし、それは普通の夫婦でもそれぞれ別の、細かい話をすれば同じような例えば集落の中で育った方々が結婚したとしても、それぞれが違う文化を持っていると意味では、おっしゃるようなあらゆるところにこういうコミュニケーションがあるんだろうということを再確認させていただきました。また、先ほど申し上げたそ

の◇リッチ◇とか事故防止というところとの関係について、また後で少し詳しくお話を伺えたらと思っています。

(◇スズキ◇) 東北大学工学部の量子エネルギー工学科というところで学んでいます、学部 4 年のスズキと申します。自分の研究の話とかそういうことじゃなくて、今日お話を聞いていて思ったのは、他人はそれだけでも異文化というような話があったと思うんですが、そういうところを考えると、もはやこの異文化コミュニケーションという話ではなくて、単に全部コミュニケーションでくくってしまうのかなというようなことを考えながら聞いていました。

(◇オオシマ◇) 加齢医学研究所で同じ脳の研究をしている、オオシマと申します。今日お話を聞いていて、自分の研究とは関係ないんですが、最近楽しんでいる趣味としまして 1 つの映画を違う言語で楽しもうというのをやっています。といってもそんなにいろいろな言語が分かるわけじゃないので、日本の映画を英語で見たり、全然違う国の映画を日本語字幕と英語字幕で見たりしたときに、あらためて日本語の持っている意味を、あ、このとき、先ほどの暑いですねというのがこんにちになるわけではないですが、あらためてこういうときに確かに自分はこういう言い方をするが、こんな意図がそこに入っていたんだということを感じることが多くあります。

それは国が違うというところで、結局国が違ったり、私は大阪育ちですが、それで東北に来るとまた全然同じことでも文化が違ったりとか、あと親子でも世代が違うと、違うという話がありましたが、自分にとってその差異が小さくなればなるほど、相手に分かっているつもりでしょう、分かるでしょうということを求めてしまうから、けんかになるのかなというようなことをあらためて思いました。ありがとうございました。

(◇カネダ◇) 東北大学工学研究科で航空管制の研究を行っている、修士 2 年のカネダと申します。研究とは直接は関係ないんですが、このお話を聞いていまして、文化というものが、先ほどのスズキ君とかぶるのですが、突き詰めていくと個人まで行ってしまうというようなことですが、ということは、例えば個人の文化というものもあればグループの文化、組織の文化、国の文化とすごくいろいろなフィールドが広がっていくと思うんです。それに対してどのようにアプローチをするかというのは、そのフィールドによって変わってくるだろうし、共通のこともあるだろうしというので、そこをどのようにやっていけばいいのかなというのが、まず考えさせられました。

あとは、その文化というものが何なのかというのもいろいろ考えていて、例えば DIE をすることで異文化コミュニケーションをスムーズに行うことができるというんですが、それは DIE を行う文化を形成するというふうにも僕は取れると思うので、そうなってくると文化とはいったい何だろうということを考えさせられました。以上です。

(◇ヤマモト◇) 私の場合は、仕事関係とか友人、知人関係というよりは、家族の妻ですとか、子供たちですとか、ほとんどエイリアンに近いですから、そういう中で今日はいろいろと勉強させていただきました。ありがとうございました。

(北村) お名前を。

(ヤマモト) ヤマモトです。

(◇ミウラ◇) 高知工科大学から来ましたミウラといいます。私は北村先生の出来の悪い弟子に当たるんですが、今回の異文化コミュニケーションという話で、教育の面というのは私にとってすごく大きいんですが。今私は実験の授業を担当しているんですが、当然私から見れば学生の考えていることはよく分らないです。というのも、実験の手伝いをしてくれているティーチングアシスタントの大学院生からしても、大学院生から見てもその学生の考えていることよく分らないと言われてまして。その差というのはどこにあるんだろうというのをよく考えていたんですが、この **DIE** ですか、この考え方にのっとって少し調べてみたら何か分かるのかなというのを見て、すごく感銘を受けてお話を伺いました。今日はありがとうございました。

(北村) 全部回してください。

(◇ハラノメ◇) 私はいいです。

(北村) いや、あなたまで全部、一通り全部です。

(ハラノメ) 北村研究室のハラノメと申します。私はここで一番年かもしれないんですが、今日のお話の中で考えていましたことは、いろいろな文化と分野の中で生活をして研究をしてきたんですが、その結果いろいろな先生ともお会いして、いろいろな文化、分野ですが、その先生が異文化に飛び込んだときにはコミュニケーションしなければならないんですが、飛び込まない状態で、飛び込んでほしいと思って、飛び込んでいただくと素晴らしいものが生まれるのに、なかなか飛び込んでいただけない。入っていれば仕方なくしますが、出っていってほしい、またくっ付いていいものにしてほしい。ずいぶん努力をしてくれているんですが、新しいものを生むためには私の場合は異分野ですね。または企業の方と先生を結ぶ場合には文化も入るかもしれません。そこで一緒になってやっていただきたいんですが、なかなか難しいです。それをどうしたらいいのかという、今日答えを少しいただいたかのように思います。ありがとうございました。

(◇シライシ◇) 東北大学の法学研究科で、◇タカハシ◇先生の下で勉強させてもらっています、シライシと申します。今日、私もやはり研究に絡んでという話は難しくてできないんですが、今日 1 日話を聞いていまして、今日のキーワードは何かとつくづく考えていたんですが、やはり中島先生のおっしゃる人間性の話だったりとか、坂本先生がおっしゃっているそのままを受け取る、そのままを見て、考えて、結論を出すというのは分らないんですが、よく考えるというのはとても大事じゃないかと思ったんですが。

この 2 つはどういうことなのかと、訓練も必要ですが、教えてできることかといったら、おそくそうではなくて、すごく人間としては深いレベルの話で、人間性もそうですし、そのまま受け取るというのは結局文化というキーワードでずっと話していましたが、スズキ君が言っていたように個人のレベルまで文化というものを下げていくと、それも彼の話ですが、文化という言葉の定義というのもありますし、個人ということで考えれば、私が思っている今まで考えていた文化という言葉の意味と少しかけ離れていまして、どちらかという人間そのものを突き詰めてやっていくようなイメージなのかと思っていました。

これというのは言葉に出してしまうとシンプルですが、すごく難しいことで、こういうのがたぶん優れている人は、訓練という言い方は正しくないかもしれませんが、どこでこういう話をするのがいいのか、やはり幼児期だったりとか、固定観念がまだ固まっていない時期というのに、例えば友人とも時々、僕も結婚もしていないし、結婚をする相手もないんですが、子供の話をします。友達に子供ができた。保育園にいつ預けるかなどという話になったんです。1 歳になったら預けると。僕は考えが古いかもしれないが、もう少し 3 歳とか、それなりにエゴが固まるまで一緒にいた方がいいのかなと思っていますが、相手は外を見せたい。いろいろな考えを見せて、いろいろなものを見せて、そういうことで、その意味では固定観念という 1 つの、1 人の母親にずっとくっついて教えてもらうというのでもいいし、あるいはいろいろな人、保母さんやほかの子供に会うことでいろいろなものを学ぶというもあるのかなという話もあったので、そういうのがいいのかなと思いました。

あとは、先生方お一人一人、文化という言葉はどういうふうにとらえていらっしゃるのかというのはすごく気になりました。すみません、ありがとうございました。面白い話でした。

(◇ヤマグチ◇) 山形の産業技術短大のヤマグチと申します。今日は非常に楽しい話を聞かせていただいて、ありがとうございました。2 つ、今日話を聞きながら思い描いていたんですが、私は医療安全のお手伝いをしているんですが、医療安全のお手伝いをしていると、お医者さんと事務屋さんで全然文化が違うんです。お互い文化が違うことを認識した上で、違うからといって理解をしようとしないう、違うので興味を持って入っていけ

ばいいんですが、相手を見ようということすらしないというようなことが見られるので、そういうような集団、そういうような傾向を持った集団に対して、どうやってコミュニケーションを取っていくのかというのが、もう少しヒントがもらえればと思いました。

もう 1 つ思ったのは、今日学生と話をしている、工場に訪問しにいかうと。君、行きませんか、行きたいですかと聞いたんです。そうしたら学生の答えが、行けます。僕は君が行けるかどうかを聞いているんじゃないで、行きたいかどうかを聞いているんだが、行きたいか。行けます。では君、来なくていいやと言ったら、寂しそうな顔をするんです。行きたいと言ってくれればと思うんですが。1 つのうまくコミュニケーションができない、相手が何を望んでいるかというような、企業がお金を出してくれるものなので、僕は学生が行きたいと言ったら連れていけるなというような思いもあって言ったんですが、なかなかその辺の理解をしてもらえなくて、どうしたら学生とコミュニケーションが取れるかなということも考えながら、聞かせていただきました。どうもありがとうございました。

(◇トバ◇) 北村研究室に所属しています、トバと申します、よろしくお願いします。そんなコミュニケーションとはなんて言えるあれじゃないんですが、一通り聞かせていただいて、思い込みとの戦いで固定観念をいかに崩すかで、いかに築いて、いかに想像力をたくましくするかということが、コミュニケーションにつながるんじゃないかと思いました。ありがとうございました。

(◇トミタ◇) 東北大学工学研究科で脳の研究をさせていただいています、トミタユキと申します。私は普段同じ研究室の外国の先輩に、研究に関してよく尋ねたりしているんですが、そういう意味で日々異文化コミュニケーションを行っているのかなと思いました。また、コミュニケーションというと人対人というイメージがとても強かったんですが、今回自己対話、人との対話がない自己対話というものもあるという新しい発見もありました。本当にありがとうございました。

(◇ミヤタ◇) 同じく東北大学で今修士の 2 年になります、ミヤタと申します。まず、自分は今までの異文化コミュニケーションを考えたときに、単純に言語を学ぶことありきだったのと、反省しなきゃならないなと今日お話を聞いて特に感じました。異文化コミュニケーションをやる上でハードルは何かと思ったときに、僕はまず日本人と話しているときにまずハードルになるのが、その内容、何をしゃべればいいか。異文化コミュニケーションとなると、それプラス言語、例えば文法なり語句なりが正しいかということまで考えなきゃならない、そうするとその 2 つのハードルになって苦手意識があるんじゃないかと感じるんですが。

ドクター坂本さんは、実際に日本に来られたときにまず何をハードルに感じたのか、その異文化コミュニケーションをする上で何をハードルに感じたのか、そのハードルをどの

ようにクリアしていったのか、そこを詳しくディスカライブをしていただければ、ありがたいと思います。

(北村) それは後でまとめてやることにして、質問を取っておきましょう。次、お願いします。

(◇イナガキ◇) イナガキと申します。中島さんが仙台に来るということで、仕事を途中で切り上げてやってまいりました。高校を卒業してカナダに 4 年間いて、今は会議コンサルティングということをしています。まさしく今日来てよかったなと思って聞かせていただきましたが、実はすごく今フラストレーションといいますか、いろいろなことが交錯していて、追及しなきゃいけないことと、何をやっているんだろうなということと両方で、とてもフラストレーションを抱えているんですが。

皆さんの先生方だったり大学で研究されている方たちの考えていることがとても分かる反面、先生が生徒の考えていることが分からないということ自体が寂しさを感じたり、あと、大学を卒業して私たちが受け入れて社員教育とかをしていく中で、とても実践的にやっている中で、少しその温度差があるかなという思いの反面と、ぜひ最後はどんな結論、どんな目的のためにこれを行っているかというのを、最後に楽しみに聞かせていただきたいと思っています。以上です。

(北村) やってください、せっかくだから、いるんだから。

(埜) 北村研究室の埜です。今日は貴重なお時間をお取りいただきまして、ありがとうございました。私はご覧の通り今心臓がばくばくしてしまっていて、コミュニケーションというのが大変苦手です。今日は先生方のお話をお聞きして、思い切って新しい領域にもどんどん出ていったり、こちらから思い切ってお話を掛けたりして、努力していきたいと思いました。今日はどうもありがとうございました。

(北村) 今の埜さんがこの事務関係一切をしてくれて、担当をやっています。

(タカハシ男) 北村先生の弟子を 25 年以上やっているタカハシと申します。私はつい最近読んだ本で、リチャード・ドーキンスの『神は妄想である』という本を読みまして、要するに文化というかなり宗教とやはり深くかかわっていると思うんです。私はそれに対してかなりアゲインストな考え方を持っていて、日本は違うと思いますが、例えば欧米の子供たちは非常に人格形成段階、非常に親の宗教的な影響を色濃く受けて、それでそういった意味でその考え方が形成されていくというものの、悪い面を非常に強調している本だったんですが。

そういう意味でその文化という中で、宗教というのは非常に微妙な話なので、あまりディスカッションの中に適切でない場合もあると思うんですが、でもそういった中でもかなり影響を、我々日本人は少ない方だと思うんですが、欧米の中での悪い意味でのその宗教の影響というのを、私は非常に最近気になっていて、そのコミュニケーションという文化の1つの側面として、そういう宗教的な面もあるのかと最近考えています。以上です。

(北村) 文化と宗教の問題は、今日は一応除外しているが、当然非常に密接に関係している問題です。あと、最後にお願いするのは、この集まりを実は私はちゃんとドキュメント化しますと冒頭にお話ししたと思いますが、そのエディティングを担当していただくタカハシさんがここに来ていて、いろいろなことをちゃんと編集者として、プロの目で聞いていただいたと思うので、感想なり質問なりをどうぞ。

(◇タカハシ◇女) 今日はありがとうございます。ライターの高橋と申します。私は科学技術コミュニケーションのお手伝いをさせていただいている者ですが、そのほかにも日々人とお会いして、取材をして、それを文章にまとめて、いわゆる◇チョウコク◇をさせていただいているので、コミュニケーションが飯の種みたいなものです。明日の米びつはコミュニケーション次第みたいなところがありまして。お会いする方はほとんど一期一会ですが、お話をされていて割り符のようにぴっぴっと合って、非常に満足のいくお話ができるときもあれば、お互いに思案顔で別れてしまうというようなところもありまして、それは先ほど中島先生が私見ですがとおっしゃいつつも、人間性がコミュニケーションの巧拙を決めるんじゃないかといったところからすると、私はまだまだ人間性という反省もあるんですが。

1つお伺いしたいと思ったのは、文化は変わるのかといったところで、長い年月がかかるが変わっていった、それは簡単なことではないといった、その文化が変わっていくというのはある意味歴史が証明している部分もあるかと思うんですが、その具体的な事例をもう少し伺いたかったのと、それと先生方がトレーナーとして異文化コミュニケーションをご教授されているときに、大きな核となるような課題が最近変わってきたな、普遍的なところもあるんでしょうが、最近こういったところが異文化コミュニケーションにおいて少し新しい課題かなとお感じになっているところが、あればお伺いしたいと思いました。ありがとうございました。

(北村) ありがとうございました。では、まだ言っていないとか、これを言うのを忘れたから絶対言いたいという方はいらっしゃいますか。よろしいですか。それぞれの方が異文化コミュニケーションについて、それぞれのお考えを語っていただきまして、ありがとうございました。少しだけ、2〜3分でそれを要約して、それで講師の方々にマイクをお渡ししますから、この質問あるいはこの切り口に対して自分はこう考えるという答えをやっ

ていただいて。一問一答は時間的に無理だと思いますので、くくって何かの切り口で答えてください。

非常に難しいんですが、今私がお聞きしていて、いろいろなご発言がありました、分野も違いますね。でも、いくつか共通問題というのは、1つは文化が変わるというのはどういうことだろう、あるいはそれはどうやったら変わるんだろうというたぐいの、文化の変化、あるいは、変化と言うと少し寂しいですね、ある程度意図を持って変えていくみたいなことですね。そういう必要はあると思います。先ほど医療安全の話をされた研究者の方がいらっしゃると思います。我々も医療安全について若干仕事をしているんですが、医療安全はやはりご指摘のようにお医者さんと、いわゆるメディカルドクターとそれ以外の方とのコミュニケーションというのはものすごく難しいです。

それだけじゃなくて、今度はお医者さんじゃなくていわゆる看護師の方とそれから放射線技師の人とか、いわゆるパラメディカルという物理療法の方々とか、それから事務の方、みんなコミュニケーションが大変で、私の知り合いの医療安全の専門家は、あの分野は事故が起こって当たり前で、起こらない方が奇跡だと言っているぐらい複雑なコミュニケーション環境にあります。だからそういうものをどうやって変えていくかという話について、何か参考になる意見を言っていたいただければ、大変ありがたいと思います。

それから、DIE がある意味で具体的な方法として今日提案があったんですが。たぶん実際に時間があればいろいろやっていただけることがあるんですが、その雰囲気だけを、触りだけを少し教えていただければありがたいなと。つまりどうやって変えるのか、自分自身をどう変えていくのかということです。それが2点目です。

それから、とても大きい話だが、もしかしたら受け取る側が少し違って受け取ってしまったかなというのは、今異文化コミュニケーションということで、文化が違えば国が違えば違うし、個人の間でも大きな差異があるという話が出ていたと思います。それはその通りですが、たぶんコミュニケーションを成立させるものというのは、その違いもあるが共通項もたくさんあるというところが、大きなポイントじゃないかなと思ってまして。だってそうですね、共通性があって、その上に立って違うものに手を伸ばしていったコミュニケーションができるんであって、それがなかったらたぶんできないし、それからコミュニケーションをやるモチベーションもなくなるんじゃないかと思います。従って、違うものと共通なものという視点でその辺を語っていただけたらいいのかなと思います。

時間もあまりないので、今強引に3点にくくりました。どうやって変わるか、変えられるかという話と、それからDIEのトレーニング、変わるやり方、変えると、それから共通性と個別性みたいな話ですが。そのほかにフロアの方々がおっしゃったことで、ここにはご自身が今答えをわりと用意できるということがあれば、ぜひお願いしたいと思います。では、発話順で山本さんからマイクを回します。

(山本) ありがとうございます。違いと共通点というところからいきたいと思うんです

が、これを出してみてもよろしいですか。先ほど文化というのは氷山にたとえられますと提案したと思うんですが、これは単純で有名なモデルの 1 つです。研修の中ではこれだけでなくて、例えばこういう書き方もいたします。小さく描きますが。

(北村) もう少し大きく描いてください。

(山本) ありがとうございます。こういう描き方です。つまり文化とは何かというときに、私は一言で言うと文化イコール人間と考えています。人間ですから生きています、生きているから変わっていきます。人間は 1 人の場合もありますし、集団の場合もあります。多くの定義の中でよく使われる文化の定義というのは、特定の集団がいく世代もかけて長い間学習したルール、価値観、心情などということです。これが文化の有名な定義の 1 つです。これが例えば日本人であったり、これが中国人であったりという具合になります。

ここに海があります。そうしますと、文化ですから違いもあります。違いもありますが、この氷山の下はつながって描いていますよね。このところずっと氷山はつながっているんです。これは島と考えた方が本当はいいかもしれないです、アイランドの島です。つながっているところは共通項、私たちは人間皆共通点を持っているということです。例えばマズローの法則で言えば、人間は生存したいという欲求だったり、安全の欲求だったり、自尊心とか社会的欲求だったり、この自尊心と社会的欲求は自分とか他人から認められたい、承認されたい、自分からも他人からも私はオーケーな人間ですよと言われたい。そして自己実現というのがあるわけですが、ここは共通項です。タンザニア人でもアメリカ人でも、営業の人でも研究者でも、子供でも大人でもここが共通項です。

だけど違いがありますよね。その違いが海の下の例えば違うルールだったり、違う価値観だったり、違う信念だったりというようなことです。このように考えますと、異文化コミュニケーションのトレーニングをやっていて、何を目的として私はやっているか。橋渡し、ブリッジですね、橋、ごめんなさい、アクセントが分からないんですが、橋渡しです。違いがあまりにも顕在化されてしまっていると、違うからもうコミュニケーションをしないという、どなたかご指摘していましたね。違うからコミュニケーションしないと、そういうところをできるだけなくして、そして人間っていいよね、相手の心に触れたときに涙が出たり笑ったり、そういうお手伝いが少しでもできれば、異文化コミュニケーションを通して、それをやっています。

例えば赴任される駐在員の方、またはアメリカの外資系で働いている日本人の方、いろいろな方が違うからコミュニケーションをしないということで悩んだり、またもちろん会社を辞めたりもしています。でも少しそのあたりでお手伝いができたらいいなと、共に笑ったりという、それを少しお手伝いができるんじゃないかなというところでかかわっています。

今、私が 1 つ思い出しますのは、最近ではないんですが、誰かにずいぶん前に聞いた話

ですが、コミュニケーションが暗礁に乗り上げたときにどうするか。共通の目標があるかどうか、ある人たちは強いです。あるかどうか。あっても忘れちゃうときがあるんです。何のために一緒にここでやっているの。ちょっと待って、共通の目標があったんじゃないと振り返し、そこに戻れると強いです。お互いに、そうだ、私たちは一緒のものを持っているじゃない、会社だったり、または夫婦だったり。ただ、これがちょっと待てよと、私は、あなたと私は同じ土俵に乗りたくないのということもあるかもしれません。これが共通の目標がなくなったときです。それを自分に自問自答する必要があるんです。

このまま、違うからコミュニケーションをしなかったら、どこまで行きますか。最悪何になりますか。それでオーケーですか。土俵に乗りませんか、乗りますかというこの覚悟です。自分で自問自答している、この土俵に一緒に乗りますか、一緒の土俵に乗るとするのは共通の目標を持っているかどうかということですが。そういったことが非常に、土俵に乗るか乗らないかという言葉は私は印象に残りまして、シェアいたしました、分かち合いました。坂本先生に。

(北村) ◇……◇こう行こうかなと思っていますが。

(山本) なるほど。中島さんをお願いします。

(中島) 私ですか。

(北村) 今 3 つぐらいくくった話と、それから個別のご質問、あるいはこういうのがあったのでくくったものの話でもいいですし、個別の話でもいいので、何か今の話からでお答え、アドバイスをいただければということです。

(中島) 直接的なお答えになるかどうか分からないんですが、変わると変わらないと言ったのは、私が言い出したと思うんですが。あまりそう難しく考えているわけじゃなくて、カルチャーって漠然としていますが、何ですかという話もあったと思うんですが、単純に言えば、習慣とか社会の決まりとか、そういったたぐいのものを単純に言っている、私の場合はそうです。そうでないと、私どもは仕事を進めていますから、最終目的は仕事が入りまくることです。ですから、どういうことであれそれは手段に過ぎないです。結果としていい結果が出ればそれでいいという、そんな感じでとらえたんです。ですからあまり複雑に考えているわけじゃないんですが、そういう意味で申し上げました。

それからもう 1 つは、人間性という言葉を使ってしまったんですが、少し抽象的です。だからもう少し別な言い方をすると、どなたかが言ったと思うんですが、コミュニケーションはいらぬという話だったと思うんですが。思いやりというキーワードかなという。先ほど、あなたでしたか、インドネシア、3 つでしたか、そうですね。あのときは言葉は

通じたんですか、通じていないですか。

() 最初は通じなかったと思います。

(中島) でも何となく向こうが理解してくれましたか。

() そうです。その後私たちが理解して。

(中島) それが、おそらく雰囲気を見ていて、何か困っているんだなと。これは相手に対する思いやりだと思うんです。先ほど言いましたように 3 つの理念の中では、紳士淑女というのは、常にいついかなるときでもお客さんに心地よくしていただこうと、そういう存在を言うというのが◇……◇です。もう 1 つ言いましたのは、これはすごくいいなと思っていますが、社員とお客さんがいますね、こういう言い方をしています、社員を家族のように、お客様を親友のように、こういう言い方です。ですから相手に対して関心を持つ、そして思いやり、それが私が言っている人間性ということの原点だと思うんです。ですから、それがあればいかに相手のことを思っている声を掛けてあげるとか、こういう言い方では通じないんじゃないかな、もっと別な言い方をしてみようかとか、そのようにつながってきますよね。それが結果的にうまくいくんじゃないかと私は思っています。

よく言われることですが、皆さんご存じだと思うんですが、愛という言葉がありますね、ラブです。愛の反対は何ですかと言うと何ですか。知っていますか。

() 憎しみですか。

(中島) 多くの人は憎しみと言うんです。でもたぶん違います。

(北村) 今、発話がありました。

() 無関心です。

(中島) そうです。これはマザー・テレサが言ったという話ですが、無関心です。要するに憎しみというのはある種の愛の裏返しみたいな格好になっていて、ものすごくその人とつながっているんです。憎しみはつながっているんです、つながらないと憎めないです。そうじゃなくて無関心、放ったらかされるというのが人間は一番不幸です。ですから今言ったこの◇リッツ◇の場合は逆です。相手に対して関心を持つというのです。ですから、そうなるとコミュニケーションが取れるんじゃないかと私は思うんです。

だからあまり小手先のスキルよりも、その方が大事なかと私は感じています。もちろん

DIE とかいろいろ、私も実際に仕事の場の中では DIE というのは使っています。使っているが、別に言葉にしません、自分の手順の中ではそういうことをやっていますが。そんなところですよ。あと何かありますか。そんなところでよろしいですか。

(北村) 取りあえず、ありがとうございます。最後に坂本さんから。

(坂本) やはり文化は何かと言うと、私じゃなくて残念ですが、有名なオランダ人が、ソフトウェア・オブ・ザ・マインドと言いました。だから脳のソフトは文化です。そう言えば私がすごく理解できるのは、私が例えば XP、今私の生徒はビスタです。だから本当に理解できるのはたくさんあるんですが、全然理解できない部分もあります。どうしても私の XP は英語のバージョンですので、日本語のバージョンと合わないところもあります。私が変われるかどうかと思うのは、アップデートしますかといつもコンピューターから聞かれます。それを自分で決めることです。アップデートするかどうかは自分の判断だと思います。

アップデートしたければ、ある程度は近くになりますが同じにはならないと思います。いくらでも XP のサービスパックを使っている人は、ビスタとまだ少し違うとか。一生懸命作っていても、2007 年のパワーポイントはどうしても映らないときもあります。これは異文化コミュニケーションとすごく似ているところではないかと私は思います。

DIE がほかの文化と使えるのは、人間は人間で脳の働きは似ているところはたくさんあると思います。ですから、そちらのハードが似ているところでソフトをプログラムすれば、誰でも使えると思いますが、時間があれば、この DIE は写真や映画とか、おっしゃった通りで字幕で読んでみると、映画と少し合わないところもありますし、別の意味とか。よく私が英語だけのビデオを見せると、どうしてここで笑っているとか、どうしてここで冗談を言うとか、やはり日本だったら絶対そこで笑ないのにどうしてそこで笑っているのとか、いろいろな使い道があります。

脳の勉強には私は全然遠いですが、脳が素晴らしいと思うのは◇ケ◇があることです。うちのおじいちゃんが転んでしまってけがをしたが、脳が別の結びを自分で脳がつくっていました。だから彼ができることは、自分の脳を取り替えて、本当に新しい道を見つけたんです。その動き方は非常に感謝でいっぱいです。それがうちはみんなが持っているものですから、その使い方はもっと使うべきだと私は思います。左と右しかないわけではないと私は思います。前と後ろとかいろいろな場面があるので、そういう全部を結ぶためにはやはり経験だと思います。

アインシュタインの脳を死んでから見れば、そのつないでいる道が普通の人よりは本当にゴルフボールみたいにつないでいました、そんなに硬くなってしまって。それは考えてみると私たちはどのくらい自分の脳を使っているか、恥ずかしくなる人もいます。が、やはりせっかくもらったもので、もっと使うべきであれば、自分で決めてやるべきじ

やないかなと私は思います。でも、これが先ほどの私が教えた通りのアメリカ人のソフトです。可能性が 10%だったらやってみるんです。やはりそれがどうしても私のプログラムの中で変わるものではないです。ですが、今日はこの素晴らしいチャンスで皆さんと話することができれば、皆さんも自分の分野でいろいろ考えさせられるチャンスは、なかなか普通の人はないから幸せだと私は思います。これからみんなが自分で今日の話を、どのようにコミュニケーションするかすごく楽しみだと思います。

結論ではないかもしれませんが、まとめだと思えば、私はどうしても先生だから宿題は出したいので、ほかの人に今日のことをしゃべってほしいです。自分で終わってしまうともったいないと思います。アフリカのことわざですが、年上の方が亡くなると図書館が◇ヒヤ◇いってしまいますと言います。みんなは図書館です。みんながそのまま図書館の状態で終われば、もったいないと思います。やはりそこが図書館を開いて、今日習ったこととか考えたこと、全然分かりませんでしたでもいいです、何でもいいですが、ほかの人にコミュニケーションをすると、コミュニケーションのいい方法がそこから生まれると思います。自分で考えたことは、今日はこうやりました、面白かったよとか、分からなかったことをどう思いますかとか、非常にみんなにアップデートしてほしいと思います。ありがとうございます。

(北村) どうもありがとうございます。時間が残り少なくなってきたので、3人の講師の先生にいろいろお話しいただきましたし、フロアの皆さんからも今日は全員発言いただいたということで、少なくともコミュニケーションとしては取りあえず双方向の、バイダイレクショナルなコミュニケーションは成立していたかなと、形だけでもそう思います。僕は一言ご説明しなきゃいけないと思うのは、先ほどたまたまイナガキさんが言われた、この場の目的は何でしょうか、本当の問題は何ですか、若干フラストレーションがたまった部分もあるというようなお話がありましたが、本当にそうだと思います。

というのは、これは極めて実験的というか予備的な試みで、ここにいらっしゃる方は、たぶん異文化コミュニケーションという世界に前からかかわっていらっしゃった方は少数派だと思います。私を含めてそういうことはあまりやっていなかったと思います。でも、いろいろな分野の中に異文化あるいは異分野コミュニケーションに当たる問題が隠れているということを、たぶんそれぞれがそれぞれの立場で感じてここに来られて、いくつかのヒントを受け取ったんだと思います。

だから、最終目的は実はこの場ではそういうヒントをやりとりできれば、もうそれでおしまい、私はそれでよかったと思っています。それ以上の本当の問題解決というのは、例えば先ほどの医療安全の分野なら医療安全の分野で、あるいは学校教育なら学校教育の分野、あるいはもしかしたら家庭内のいろいろなコミュニケーションかもしれない、それぞれの分野に答えはあります。そのためのそれぞれの切り口というのを今学んだのかなと思っています。ただ、できたらまたそのうちに機会をつくって、第2部というか、今日が

基礎編、あるいはノービスバージョンだったとしたら、アドバンスドバージョンをやればいいなと思っていますので、先生方もぜひそういう意味で機会があったら、またもう 1 回お付き合いをお願いしたいと思います。

皆さん、最後に 3 人の講師の先生方に拍手でお礼をして、締めくくりたいと思います。どうもありがとうございました（拍手）。では、時間がちょうど 5 時半ですのでこれで閉会にいたします。もし、今日来られて塙さんの方に連絡先がまだ渡っていない方は、できたらメールアドレスなり何なりを渡しておいていただけると、次の機会をご案内できると思います。よろしくお願いします。

（講演会終了）